

研究発表会開催通知

(平成2年10月15日～11月30日)

研究会	日	時	会場	備考
情報システム	10月16日(火)	13:00～17:00	機械振興会館	前号参照
グラフィクスとCAD	10月19日(金)	9:30～16:30	京大会館	同上
コンピュータと教育	10月22日(月)	9:30～17:20	機械振興会館	同上
情報学基礎	10月23日(火)	13:00～17:00	同上	同上
ヒューマンインタフェース	11月1日(木)	13:30～17:00	機械振興会館	下記参照
データベース・システム 人工知能} 合同	11月8日(木) 11月9日(金)	10:00～17:30 10:00～17:10	I C O T	同上
ソフトウェア工学	11月13日(火)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
計算機アーキテクチャ	11月21日(水) 11月22日(木)	13:00～18:00 9:00～12:00	三朝温泉	同上
記号処理	11月22日(木)	10:00～17:00	北大	同上
コンピュータビジョン	11月22日(木)	10:00～16:30	東大	同上
自然言語処理	11月22日(木)	10:30～17:15	筑波大	同上
アルゴリズム	11月22日(木)	13:00～17:10	日立	同上
人文科学とコンピュータ	11月30日(金)	10:00～17:00	佐賀県立美術館	同上
マイクロコンピュータと ワークステーション	11月30日(金)	13:30～17:00	機械振興会館	同上

◆ 第33回 ヒューマンインタフェース研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 木村 泉, 幹事: 小橋史彦, 角田博保, 黒須正明)

日 時 平成2年11月1日(木) 13:30～17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室

(東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, または JR: 浜松町下車, バス: 渋谷-東京タワー線東京タワー, 渋谷-東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車. Tel. 03 (434) 8211)

議 題

- (1) ABR 等電位地図とその応用 加藤修一, 中辻康弘 (帝京技科大)
〔概要〕 準備電位を利用した人工義肢設計のための基礎研究としてマッピングによる ABR の測定, 評価を行った。
- (2) 日本語ワードプロセッサの仮名漢字変換の解析と評価 本宮志江, 酒井貴子, 下村秀樹, 高橋延匡 (農工大)
〔概要〕 各社日本語ワープロにおけるかな漢字変換の解析と評価. 特に変換率と操作系の評価結果について述べる。
- (3) 視覚障害者用触覚ディスプレイについて 篠原正美 (製科研)

〔概要〕 重度視覚障害者に図形情報を伝達する高密度・多階高型ピン・ディスプレイの概念および基礎実験を紹介する。

(4) X Window 上での事象タイミングデータ測定法について 粕川正充, 赤池英夫, 角田博保 (電通大)
〔概要〕 X Window のサーバに手を加えて, 事象タイミングデータを測定できるようにした. 手法, データの精度, 応用例について述べる.

◆ 第80回 データベース・システム研究会 } 合同
◆ 第73回 人工知能研究会 }

(発表件数: 13 件)

DBS (主査: 牧之内顕文, 幹事: 北川博之, 佐藤和洋, 田中克己)

AI (主査: 石塚 満, 幹事: 原口 誠, 松原 仁, 吉田裕之)

日 時 平成2年11月8日 (木) 10:00~17:30

11月9日 (金) 10:00~17:10

会 場 新世代コンピュータ技術開発機構 (ICOT) アネックス会議室

(東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル・アネックス, JR (山手線): 田町下車, または地下鉄 (浅草線): 三田下車, 徒歩 10 分, 地下鉄 (三田線): 芝公園下車, 徒歩 5 分. Tel. 03 (456) 3069)

議 題 特集: データベースと知識処理

11月8日 (木) —10:00~12:00—

(1) 逐次単節導出による演繹推論アルゴリズム 小幡 卓 (防衛庁)

〔概要〕 演繹推論において, 単節が存在する場合 NP-Complete でないアルゴリズムが可能なることを示す.

(2) Belief as a Justified and Consistent Knowledge II 松田 聖 (東電)

〔概要〕 知識と信念による推論に対して, 可能世界による理論的裏付けを行う.

(3) 述語論理知識に適用できる高速仮説推論システム 近藤朗子, 牧野俊朗, 石塚 満 (東大)

〔概要〕 述語論理知識ベースにも適用でき, 前向き推論と後向き推論の特長を取り入れた高速仮説推論システム.

—13:20~14:40—

(4) 1990年夏のワークショップ報告 松原 仁 (電総研), 吉田裕之 (富士通研)

〔概要〕 今年の夏に開催されたワークショップの様相を報告する.

(5) 人間の知識処理に対する考察

藤井和之 (清水建設), 平賀 智 (CAC), 千葉義夫 (大和総研), 山本浩司 (川鉄システム開発)

谷守正行 (太陽神戸三井銀行), 飯田達哉 (MC ソフトウェア), 田中孝之 (東レ)

〔概要〕 AI を実現するために必要な機能を分析し, 人間の知識処理に基づく知能表現モデルを提案する.

—15:10~17:30—

パネル討論: オブジェクト指向データベースと分散人工知能 司会: 横田一正 (ICOT)

パネラ: 石田 亨 (NTT), 所真理雄 (慶大), 中島秀之 (電総研), 西尾章治郎 (阪大), 吉川正俊 (京産大)

11月9日 (金) —10:00~12:00—

(6) 演繹データベースの実用性に関する一考察 五斗 進, 鈴木孝彦, 高木利久, 牛島和夫 (九大)

〔概要〕 演繹データベースにおける各種の質問処理手法を実現した. これを実用的な問題に適用し, 効率等を評価した.

(7) 演繹 DB に対する質問処理を効率化するプログラム変換手法 堤富士雄 (電力中研)

〔概要〕 与えられたプログラム中の基底述語を有効に利用するように変換しボトムアップ処理を効率化する手法の拡張.

(8) Well-Founded Epistemic Theory of Knowledge Bases 坂間千秋 (ASTEM)

〔概要〕 Well-Founded モデルの disjunctive プログラムの拡張, およびそれに基づく Belief Set, Abduction, Belief Revision について述べる.

—13:20~17:10—

- (9) 遺伝子情報処理向け知識ベースの構想について 小長谷明彦 (日電)
〔概要〕 不確実性を含む大量の遺伝子情報を管理、検索するために有効な知識ベースの構想について報告する。
- (10) 文献情報データベースを情報源とする知識ベースシステム 宇陀則彦, 石塚英弘, 山本毅雄 (情報大)
〔概要〕 知識を自動的に獲得し、個別的知識と一般的知識からなる知識ベースシステムを構築し、問題解決を行った。
- (11) 演繹・オブジェクト指向データベースによる判例データベースの構築 山本展一郎, 阿比留幸展 (ICOT)
〔概要〕 DOOD 言語 Juan を用いて判例を記述し、判例に基づく類推により法的判断を導出する方式を検討する。
- (12) Object Identity Revisited 森田幸伯, 羽生田博美 (沖電気), 横田一正 (ICOT)
〔概要〕 演繹・オブジェクト指向データベースの立場からオブジェクト識別性を再検討する。
- (13) Labeled Graphs as a Semantics of Objects 安川秀樹, 横田一正 (ICOT)
〔概要〕 知識表現言語 Juan+Quint の意味論を説明する。

◆ 第75回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 原田賢一, 幹事: 宇都宮公訓, 大槻 繁, 大蒔和仁)

日 時 平成2年11月13日(火) 13:30~17:00
会 場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)
議 題

- (1) 情報システム開発方法の比較 加藤潤三 (日本ユニシス)
〔概要〕 ジャクソン法 (JSD) と Ward 等の SA を取り上げ、課題領域の捉え方とその記述法について比較検討する。
- (2) ライフサイクルを一貫して支援する自動プログラミングシステム 古宮誠一 (IPA)
〔概要〕 ライフサイクルを一貫して支援する自動プログラミングシステムの実現方式について具体例をあげて紹介する。
- (3) プロダクトの関係記述による開発支援環境の構築 西村好洋, 飯田 元, 荻原剛志, 新田 稔, 井上克郎, 鳥居宏次 (阪大)
〔概要〕 プロダクト間の依存関係やプロダクトに対する操作の記述から開発支援環境を構築する方法を述べる。
- (4) 通信プログラムテスト環境 田中博明 (東芝)
〔概要〕 通信プログラムテスト環境の柔軟性をプロトコル, ハードウェア, テストケースの面から実例を基に論じる。

◆ 第77回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 11件)

(主査: 富田眞治, 幹事: 後藤厚宏, 村上和彰, 横田 実)

日 時 平成2年11月21日(水) 13:00~18:00
11月22日(木) 9:00~12:00

会 場 鳥取県・三朝温泉 齊木別館

(鳥取県東伯郡三朝温泉, JR (山陰本線): 倉吉下車, バス (三朝温泉行き): 三朝温泉口下車 (約20分), 徒歩5分, 鳥取空港からは車で60分, 米子空港からは車で90分. Tel. 0858 (43) 0331)

議 題 特集: 専用計算機

11月21日(水)

—13:00~18:00—

● 数値計算

- (1) 資源共有型並列計算機“砂丘” 荒川 修, 橋本正巳, 井上倫夫, 小林康浩 (鳥取大)

〔概要〕 汎用 μP を 64 台接続した資源共有型マルチプロセッサシステムによる数値シミュレーションについて述べる。

(2) 並列処理システム一斉一のパケット管理機構の構成 石崎一明, 山名早人, 村岡洋一 (早大)

〔概要〕 従来, われわれが提案している一斉一の仮実行方式をハードウェアで実現する機構について述べる。

(3) 『順風』: ストリーム FIFO 方式に基づくシングルチップ・ベクトルプロセッサ・プロトタイプベクトル分配/併合方式の評価一 岡崎恵三, 弘中哲夫, 村上和彰, 富田眞治 (九大)

〔概要〕 IF 文を含む DO ループに対する新しいベクトル処理方式であるベクトル分配/併合方式について評価を行う。

● 画像/図形処理

(4) ビットイメージと手書き入力描画との複合画像処理 川上孝志, 田中淳二 (鳥取三洋電機)

〔概要〕 手書き入力描画情報とビットイメージ情報を同一画面情報として処理し画像通信するシステムについて報告する。

(5) 数値シミュレーション結果のリアルタイム可視化アーキテクチャ 安藤利光 (日立)

〔概要〕 数値シミュレーション結果を, CPU からリアルタイムに直接 VTR に録画するシステムについて報告する。

(6) 『熱視線』: 視線探索法を高速処理する専用並列レンダリング・マシナーマクロパイプライン・アーキテクチャ 権 五鳳, 村上和彰, 富田眞治 (九大)

〔概要〕 視線探索法に特化したマクロパイプライン方式, および各ステージのハードウェア構成と処理について述べる。

● データベース

(7) データパラレルハッシュジョインアルゴリズムとコネクションマシン (CM-2) によるその評価

松本和彦, 喜連川優, 高木幹雄 (東大)

〔概要〕 関係データベースジョイン演算に関する新しい超並列アルゴリズムを提案し, 細粒度超並列マシンによりこれを評価する。

11月22日(木)

—9:00~12:00—

● 記号処理

(8) データ駆動計算機 EM-4 プロトタイプの開発・動作環境

岡本一晃 (三洋電機), 児玉祐悦, 坂井修一, 山口喜教 (電総研)

〔概要〕 データ駆動計算機 EM-4 プロトタイプにおける開発過程ならびに現在の動作環境について述べる。

(9) データ駆動計算機 EM-4 の関数分散方式 児玉祐悦, 坂井修一, 山口喜教 (電総研)

〔概要〕 データ駆動計算機 EM-4 における関数分散方式について, その方式とプロトタイプにおける評価を述べる。

(10) Linked Data Structures のための記憶管理とその動特性 實藤隆則, 安田弘幸, 前川博俊 (ソニー)

〔概要〕 われわれが提案しているリストデータのための記憶構成・管理方式とシミュレーションによるその動特性について述べる。

● 並列処理

(11) 新しい可変構造型相互結合網の提案 末吉敏則, 杷野公平, 有田五次郎 (九工大)

〔概要〕 FPGA の可変性に着目した新しい可変構造型相互結合網を提案し, 静的網と動的網の実現法について述べる。

*会場宿泊施設 (1泊2食, 懇親会費込で 15,000 円程度) を利用される方は, 事前に宿泊申込が必要です。10月31日(水)までに下記宛にお申し込みください (定員 50 名)。

申込み問合せ先: 小林康浩 (鳥取大・工・知能情報 680 鳥取市湖山町南 4-101)

Tel. 0857 (28) 0321 内 4190 FAX 0857 (28) 1092

*IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

◆ 第 59 回 記号処理研究会

(発表件数：6 件)

(主査：竹内郁雄，幹事：多田好克，小谷善行，相場 亮)

日 時 平成 2 年 11 月 22 日 (木) 10:00~17:00

会 場 北海道大学 工学部 A-232 号室

〔札幌市北区北 13 条西 8 丁目，JR：札幌下車，徒歩 20 分，または地下鉄：北 13 条下車，徒歩 3 分。Tel. 011 (716) 2111 内 6813, 6815, 6817〕

議 題

—10:00~12:00—

(1) メタシステムに基づくオブジェクト間相互作用 繁田良則，原田康徳，渡辺慎哉，宮本衛市 (北大)
〔概要〕 さまざまな形態のオブジェクト間相互作用を洗練された枠組みで取り扱うためにメタシステムの導入を試みる。

(2) KL1 におけるメタプログラミング 越村三幸 (JBA)，藤田 博 (三菱電機)，長谷川隆三 (ICOT)
〔概要〕 並列処理言語 KL1 におけるメタプログラミングの問題点，効率の実現法，評価，応用例を述べる。

(3) ペトリネットで表現された GHC プログラムの実行履歴
中島俊介 (沖通信システム)，長谷川晴朗 (沖電気)
〔概要〕 ゴールが実行された順序を表すペトリネットの求め方と，プログラム性能評価への応用について述べる。

—13:00~15:00—

(4) 計算モデル LINDA の TAO への導入 (TAO meets LINDA)
村上健一郎，明石 修，天海良治，奥乃 博 (NTT)
〔概要〕 TAO 上で実現した LINDA の通信プロトコルと，能動的タプルスペースをもつインタプリタの構造について述べる。

(5) 分散型環境 Kamui について 原田康徳，浜田 昇，渡辺慎哉，宮本衛市 (北大)
〔概要〕 Kamui 環境の設計思想，構成および将来展望について述べる。

(6) Kamui 環境におけるオブジェクト記述言語について
浜田 昇，原田康徳，渡辺慎哉，宮本衛市 (北大)
〔概要〕 分散型環境 Kamui の主要な記述言語について，言語仕様および環境内での動作を中心に述べる。

—15:30~17:00—

フォーラム：プログラミング環境のベンチマークについて 司会：竹内郁雄 (NTT)
話題提供：湯浦克彦 (日立)，原田康徳 (北大)，奥乃 博 (NTT)，上田良寛 (ATR)
〔概要〕 いままで行ってきた Lisp コンテストや Prolog コンテストのようなシステムの速度性能を計測するベンチマークではなく，プログラミング環境に対してベンチマークが提唱できないかを議論する。

◆ 第 69 回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数：8 件)

(主査：谷内田正彦，幹事：田島譲二，富田文明)

日 時 平成 2 年 11 月 22 日 (木) 10:00~16:30

会 場 東京大学 生産技術研究所 第 1 会議室

〔東京都港区六本木 7-22-1，地下鉄 (千代田線)：乃木坂 (青山墓地側) 下車，徒歩 5 分，地下鉄 (日比谷線)：六本木下車，徒歩 7 分。Tel. 03 (402) 6231 (内 2645 (全))〕

議 題

—10:00~12:00—

(1) 階層的な形状プリミティブの並列的発見 小泉正彦 (松下電器)，富田文明 (電総研)
〔概要〕 階層的に物体を構成する共通的な形状プリミティブをボトムアップ並列的に画像から抽出する方法について述べる。

(2) 時間的定常性を仮定した光流動場の決定 野村厚志，三池秀敏，古賀和利 (山口大)

〔概要〕 流体力学の保存の式に基づいた光流動の新しい決定法を提案し、従来のグラディエント法との特徴の違いを示す。

(3) 物体認識の反マラー的理論 徐 剛, 辻 三郎 (阪大)

〔概要〕 マラーの物体中心座標系の 3D 表現でなく、ビュー座標系の $2, \alpha D$ 表現を用いて、物体の学習と認識を行う。

—13:00~16:30—

(4) 網膜の光学顕微鏡写真からの細胞像抽出法に関する検討

横山清子, 太田郁也, 渡辺興作, 高田和之 (豊田工業高専)

〔概要〕 画像処理による細胞像抽出に関し、画面の濃淡値の統計的性質の利用、ヒトの処理結果の利用について述べる。

(5) 射影幾何学的補正によるサブ画素精度の直線あてはめ 小野寺康浩, 金谷健一 (群大)

〔概要〕 画像中のいくつかの直線が空間中では平行であるとか直交しているという知識を用いて直線あてはめ精度を向上させる。

(6) 三眼視で隠れエッジを利用したシーンの解釈 越後富夫 (日本 IBM)

〔概要〕 三眼視で、任意の一台のカメラから隠れたエッジを利用して、シーンの自由領域と物体の可視面を決定する。

(7) 画像系列からの人体運動復元に関する一考察 白石圭子 (広大)

〔概要〕 局所的形状変化に注目した動画像からの人体運動復元を行うための人体モデルの提案とその画像との関係を考察する。

(8) 自律走行車用視覚情報処理システム 尾崎 暢, 大空真由美 (富士通研), 平塚芳隆 (富士通)

〔概要〕 路上の白線と障害物をビデオレートで検知するシステムを試作し、その評価実験を行った。

◆ 第 80 回 自然言語処理研究会

(発表件数: 8 件)

(主査: 野村浩郷, 幹事: 田中裕一, 徳永健伸, 内藤昭三)

日 時 平成 2 年 11 月 22 日 (木) 10:30~17:15

会 場 筑波大学 大会館 特別会議室

〔つくば市天王台 1-1-1, JR (常磐線) : 荒川沖 (東口) 下車, 関鉄バス (筑波大学中央行き) : 大会館前下車, (約 40 分), または常磐高速バス (東京駅八重洲口—つくばセンター行き) : つくばセンター下車 (約 60 分), 関鉄バス (筑波大学中央行き) : 大会館前下車 (約 15 分). Tel. 0298 (53) 4121 (草薙)〕

議 題

—10:30~11:50—

(1) ニューラルネットによる日本語形態素解析・係り受け解析 高橋直人, 板橋秀一 (筑波大)

〔概要〕 日本語の形態素・係り受け解析を組み合わせ問題としてとらえ、相互結合型ニューラルネットで解いた結果を述べる。

(2) 表層より得られる単語共起関係とその評価

潤瀉謙一 (北大), 荒木健治 (北海学園大), 宮永喜一, 柄内香次 (北大)

〔概要〕 単語間の共起関係を文の表層から抽出する手法を提案し、実文書によりその性能評価実験を行った結果を報告する。

—13:00~17:15—

(3) COLING-90 に出席して

中村順一 (九工大)

〔概要〕 8/20 から 8/25 に COLING-90 が Helsinki, Finland にて開催された。それに出席したので、会議の概要を紹介する。

(4) 文脈を用いた曖昧性解消の一アプローチ

佐野 洋, 福本文代 (ICOT), 長澤郁子, 末廣香緒里 (富士通研), 小野寺浩 (富士通 F・I・P)

〔概要〕 統語構造が示す構文上の特徴をとらえることで、文脈処理をおこない、一部の曖昧性が解消されること

を示す。

(5) インドネシア語理解のための計算モデル

Hartono, 田中穂積 (東工大)

〔概要〕 統語規則を含む曖昧性解消情報を単語の語彙項目内に一括して記述する方法を利用した計算モデルを提案する。

(6) 格関係からの中国語生成

王啓祥, 王錫江 (南京大), 黄英, 安原宏 (沖電気)

〔概要〕 日本語を解析して得られた格関係から構文変換を行う中国語ジェネレータの設計と実現について述べる。

(7) 並列マシン上での時間差破壊型単一化アルゴリズム実現の手法

藤岡孝子, 苔米地英人, 古瀬 蔵, 飯田 仁 (ATR)

〔概要〕 Light-weight-process 法の採用により Tomabechi の時間差破壊型単一化手法を並列マシン上に実現し, 並列効果を確認した。

(8) 変換主導型機械翻訳の実現の手法

古瀬 蔵, 隅田英一郎, 飯田 仁 (ATR)

〔概要〕 変換によって翻訳処理を制御する高速, 高品質の新しい機械翻訳の手法について検討, 基礎実験を行った。

◆ 第18回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 西関隆夫, 幹事: 浅野孝夫, 岡本栄司, 安浦寛人)

日 時 平成2年11月22日(木) 13:00~17:10

会 場 日立製作所 中央研究所 VLSI 研究棟 コンファレンスルーム

(東京都国分寺市東恋ヶ窪 1-280, JR (中央線): 国分寺 (北口) 下車, 西武多摩湖線沿に徒歩約10分。

Tel. 0423 (23) 1111)

議 題

(1) カラム分割外部ソートアルゴリズム

永澤美佐, 高嶺美夫, 高 正昭 (日立)

〔概要〕 ベクトル計算機とその拡張記憶を利用し, 大規模データを高速にソートするカラム分割外部ソートについて述べる。

(2) メッシュバス機械上での並列ソーティングアルゴリズムについて

岩間一雄, 宮野英次 (九大), 上林弥彦 (京大)

〔概要〕 2次元に通信バスを配した並列モデル上でのソーティングアルゴリズムとその解析およびシミュレーションの結果を発表する。

(3) On the Complexity of Computing Optimal Solutions

陳 致中, 戸田誠之助 (電通大)

〔概要〕 組み合わせ論的な問題における最適解を求めることが本質的に $PF_{\#P}^{NP}$ と同じ計算量を持つことを示す。

(4) The Complexity of Finding Medians

戸田誠之助 (電通大)

〔概要〕 $PF(\#P)$ の単純な特長付けを与えると共に, その応用として, $PF(\#P)$ -完全な関数を示す。

(5) One-Dimensional Geometric Fitting Problems of Two Corresponding Point Sets

今井 浩 (東大)

〔概要〕 直線上の2つの点集合間のマッチング問題に対するアルゴリズムを与える。

(6) 第31回 FOCS の報告

戸田誠之助 (電通大)

〔概要〕 第31回計算機科学の基礎に関するシンポジウム (FOCS) について報告を行う。

◆ 第7回 人文科学とコンピュータ研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 杉田繁治, 幹事: 小沢一雅, 及川昭文, 洪 政国)

日 時 平成2年11月30日(金) 10:00~17:00

会 場 佐賀県立美術館 研修室

(佐賀市城内 1-15-22, JR (長崎線): 佐賀下車, 祐徳・昭和バス (市営): 県庁前下車 (約15分), 県庁裏手徒歩5分。Tel. 0952 (24) 3947)

議 題

—10:00~12:00—

- (1) 遺跡データベースと映像化 及川昭文 (国教研)
〔概要〕 構築された遺跡データベースの利用方法として、国土数値情報を利用した映像化の試みについて報告する。
- (2) 古墳の復元とビジュアライゼーション 小沢一雅 (大阪電通大)
〔概要〕 古墳の形状復元を行う手順とそのシステム化について述べる。
- (3) 知的生産の技術カード支援システム —考古学データへの適用— 和田 満, 宗森 純, 長澤庸二 (鹿児島大)
〔概要〕 梅棹忠夫氏が開発した知的生産の技術のためのカードシステムを計算機上に実装し、考古学データに適用した。

—14:00~17:00—

- (4) 遺跡の空間分布にもとづく中心遺跡の推定 加藤常員 (大阪電通大短大), 小沢一雅 (大阪電通大)
〔概要〕 ある地域内に存在する同時期の遺跡の分布状況から中心遺跡を推定する“中心遺跡推定モデル”を提案する。
- (5) 貝塚データベースの作成と利用 松井 章 (奈文研)
〔概要〕 全国の貝塚遺跡の遺跡名, 時代, 所在地, 出土遺物等が収録されているデータベースについて報告する。
- (6) 不動産文化財データベース 伊東太作 (奈文研)
〔概要〕 現在, 全国的規模での考古学遺跡データベース構築の検討が進められている。これまでの検討結果を報告する。
- (7) コンピュータの考古学への応用例 高井健司 (大阪文化財セ), 辻 純一 (京都埋文研), 中川正人 (滋賀県埋文セ)
〔概要〕 コンピュータを実際に活用する現場の事例を紹介する。

◆ 第64回 マイクロコンピュータとワークステーション研究会 (発表件数: 5件)
(主査: 加藤肇彦, 幹事: 金子博昭, 水治義弘, 山田 剛)

日 時 平成2年11月30日(金) 13:30~17:00
会 場 機械振興会館 地下3階 1号室(所在地は前記参照)
議 題 特集: フォルトトレラント・マイクロコンピュータ

- (1) マイコン向き誤動作自己検知法 坂巻佳壽美 (都立工業技術センター)
〔概要〕 安価なマイコン・システムに向けた安価な誤動作自己検知法を2例紹介する。
- (2) 宇宙機搭載用コンピュータのためのフォルトトレラント OS 金川信康, 井原廣一, 加藤肇彦 (日立)
〔概要〕 ITRON 仕様 OS をカーネルにして, フォルトトレランスを実現するための OS を開発した。
- (3) フォルトトレラント・データフロー・マシンの実現 木村寛治, 小柳洋一, 当麻喜弘 (東工大)
〔概要〕 フォルトトレラント・データフロー・マシンを MC 68000 ボードで実現し, その評価を行った。
- (4) マルチプロセッサ・システムのフォルトトレラント結合方式について 田中徳彦, 古賀義亮 (防衛大)
〔概要〕 メモリにより結合したマルチプロセッサにおける, フォルトトレラント化の一手法について述べる。
- (5) フォルトトレラント・システムの信頼性評価シミュレータのワークステーション上での実現 土井 強, 向殿政男 (明大)
〔概要〕 フォルトトレラント・システムの信頼性を評価するためのツールを, マルコフ・モデルを用いて WS 上で実現した。

◆ 第5回 音楽情報科学研究グループ (発表件数: 4件)
(主査: 平田圭二, 幹事: 鈴木 孝, 増井誠生, 志村 哲)

日 時 平成2年10月27日(土) 14:00~17:00

会 場 大阪音楽大学 D-102 室〔豊中市庄内幸町 1-1-8, JR: 大阪下車, 阪急宝塚線: 庄内下車, 徒歩
7分. Tel. 06 (334) 2131〕

議 題

- (1) 点字楽譜プロセッサのソフト開発について 水谷一郎 (大阪音楽大)
〔概要〕 点字タイプライタとパソコンによる点字楽譜プロセッサ開発の構想とそれによる音楽教育の意義について述べ、協力を求める。
- (2) “AES meeting” 参加報告 鈴木 孝 (ヤマハ)
〔概要〕 “Meeting of Audio Engineering Society” およびアメリカ西海岸における最近の音楽情報処理研究の動向について述べる。
- (3) 国際会議 “MAI” 参加報告 片寄晴弘 (阪大)
〔概要〕 “Musique et Assistance Informatique” および “International Council of Traditional Music meeting” の会議について報告を行う。
- (4) “ICMC '90” 参加報告 井口征士 (阪大)
〔概要〕 今年の “International Computer Music Conference” について報告を行う。

*例会前に見学 (大阪音楽大学 楽器博物館) を行います。参加希望の方は 11:45 までに大阪音楽大学玄関ロビーにお集りください。

問合せ先: 平田圭二 (ICOT) Tel. 03 (456) 3193

◆ ソフトウェア工学研究会

第 77 回 研究会を下記のとおり開催いたします。多数のご発表をお待ちしております。

日 程 平成 3 年 2 月 7 日 (木)・8 日 (金)
会 場 富士通大分システムラボラトリ
発表申込締切 平成 2 年 11 月 30 日 (金)

◆ 計算機アーキテクチャ研究会

第 78 回 研究会を下記のとおり開催いたします。多数のご発表をお待ちしております。

日 程 平成 3 年 1 月 24 日 (木)・25 日 (金)
会 場 京都高度技術研究所 (ASTEM)
議 題 特集: 1990 年代の商用計算機
メインフレーム, スーパーコンピュータ, ワークステーション, マイクロプロセッサなど, 新しい商用計算機のアーキテクチャ, データベースマシン, FTC, OLTP マシンなども歓迎します。
*ASTEM の見学会も予定しています。

発表申込締切 平成 2 年 10 月 31 日 (水)

連絡先 柴山 潔 (京大) Tel. 075 (753) 5383 FAX 075 (753) 5379

◆ 情報システム研究会

第 32 回 研究会の発表を下記のとおり募集いたします。奮ってご応募ください。

日 程 平成 3 年 1 月 16 日 (水)
会 場 機械振興会館
議 題 特集: ファジィの応用と情報システム
従来システムではできなかった処理が, ファジィ理論の応用により可能になった等, ファジィ理論の適切な応用, 実用化の具体例, 方法論, それらの従来システムとの差異, 課題等の発表を期待しております。

発表申込締切 平成 2 年 10 月 29 日 (月)

*上記研究会に発表をご希望の方は、研究会発表申込み書（8月号欄末添付）に発表題目と発表者名、50字以内の概要をご記入のうえ、学会事務局研究会担当までお申込みください。

◆ データベース・システム研究会

今後の研究会活動予定は以下のとおりです。奮ってご参加ください。

	日 程	会 場
第 81 回	平成 3 年 1 月 17 日（木）	名古屋大学
第 82 回	平成 3 年 3 月 11 日（月）	機械振興会館

◆ 人工知能研究会

今後の研究会活動予定は以下のとおりです。奮ってご参加ください。

	日 程	会 場
第 73 回	平成 3 年 1 月 16 日（水）・17 日（木）	京都高度技術研究所（ASTEM）
第 74 回	平成 3 年 3 月 6 日（水）・7 日（木）	機械振興会館

*第 74 回 研究会は特集：事例ベース推論と類推とします。

◆ 「仕様記述の効率的適用と評価」研究グループの新設について

（主査：大蔭和仁，幹事：伊藤 潔，本位田真一）

上記研究グループが平成 2 年 7 月より 2 年間活動をしていくこととなりました。

これまでさまざまに提案されてきた仕様記述手法／言語について、本研究グループは、今やそれを実際の（現実規模の）問題に適用して、それぞれの得失を議論すべきである時期であると考えます。このため、通信ソフトウェア、計測制御ソフトウェア、並行システムのソフトウェア等を例にあげて、大学や研究所ばかりではなく企業の現場の組織の参加ももっていただき、ワークショップ形式で事例研究と評価を鋭意進めております。

本研究グループの成果については、本誌の報告等でお伝えする予定にしております。また、オープン参加のワークショップの開催も期間中に予定にしております。

平成2年度研究賞の表彰

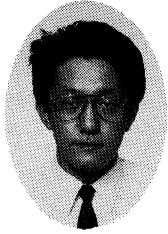
研究賞は、本学会の研究会および研究会主催シンポジウムにおける研究発表のうちから特に優秀な論文を選び、その発表者に贈られるものです。受賞者は該当論文の登壇発表者である本学会の会員で、年齢制限はありません。

この賞は研究会活動活性化の施策に基づき、昭和62年度から新設され、本年度は去る9月4日に東北大学で開催された第41回全国大会の席上、会長から表彰状、賞牌、賞金が下記の10君に授与されました。

本賞の選考は、表彰規程、研究賞受賞候補者選定手続および研究賞推薦内規に基づき、調査研究運営委員会（委員長 榎本肇）が選定委員会となって行います。今年度は表彰対象の10研究会（21研究会を奇数組と偶数組に分け、本年度は後者、来年度は前者の隔年表彰）の主査から推薦された計10編の優れた論文に対し、慎重な審議を行い、受賞候補者として推薦のうえ、第344回理事会（平成2年度6月）の承認をえて決定されたものです。

● オブジェクト指向の概念を導入した論理データベースのための項表現 DOT

〔アドバンスト・データベース・システムシンポジウム '89 (1989.12.8)〕



塚本 昌彦君（正会員）

昭和39年生。昭和62年京都大学工学部数理工学科卒業。平成元年同大学院工学研究科修士課程修了。同年シャープ(株)入社。現在、同社技術本部コンピュータシステム研究所第1研究部勤務。

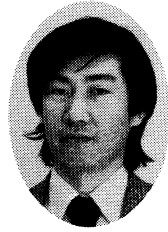
OSI 通信ネットワークシステムの開発および知識ベースシステムの基礎理論の研究に従事。人工知能学会、日本ソフトウェア科学会各会員。

〔推薦理由〕

本論文で提唱している DOT 記法の項表現への取込みは、他の関連研究 (F-Logic, O-Logic) に見られない独創的なもので、知識表現の効率化に成功している。また、ここでの形式化は単に DOT データベースに止まらず、この分野の他の研究にも応用することが可能であり、大きな可能性を秘めていると言える。特に、オブジェクト指向データモデルの形式化に影響を与えると予想される。以上の理由に加えて「日本のオリジナルなアイデア」と言う点で本論文には高い評価を与えることができる。よって研究賞に値する。

● 引数のない論理プログラム表現

〔89-SYM-53 (1989.11.22)〕



小谷 善行君（正会員）

昭和24年生。昭和46年東京大学工学部計数工学科卒業。昭和52年同大学院博士課程工学系研究科修了。同年東京農工大学工学部数理工学系研究科講師。現在同大学電子情報工学科（コンピュータサイ

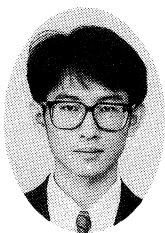
エンス）助教授。記号処理言語を含むソフトウェア工学および知識処理に興味を持つ。人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、電子情報通信学会、認知科学会各会員。

〔推薦理由〕

本研究は一般のユーザにとって使い勝手のよい論理型プログラミング言語の提案を行っている。ここで提案された言語は、Prolog 的な論理型言語と FP 的関数言語の融合を図って、自然言語にはあまり現われない変数(引数)の概念を追放したうえで、文法と意味を考慮した自然な日本語表現でプログラムを記述できるところが特徴である。本研究はまだ粗削りであるが、研究会という場で熱い議論を呼び起こすような創造的発想に満ちたユニークな研究として高く評価できる。

● UNIX におけるリアルタイム性の導入に関する一考察

[89-MIC-54 (1989. 2. 21)]



市瀬 規善君 (正会員)

出向. 現在, 同社共通ソフトウェア部勤務.

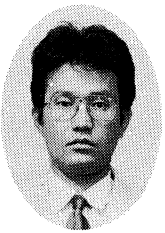
昭和 36 年生. 昭和 61 年東京大学大学院情報工学科修了. 同年日本電気(株)入社. 以来, リアルタイム OS, リアルタイム UNIX の開発に従事. 昭和 63 年, 日本電気マイコンテクノロジー(株)に

〔推薦理由〕

TSS 分野では標準的な OS である UNIX であるが, リアルタイム制御の分野では, 制御対象の複雑化にともない, リアルタイム性の欠如が指摘されていた. 本研究では, UNIX に ITRON に準拠した標準的なリアルタイム・カーネルを階層構造として結合するアプローチで, 標準的な 2 つの OS 機能を持つ 1 つの OS として実現することにより, 問題を具体的に解決している. マイクロプロセッサ用 UNIX の適応分野を広げるという点で, 本研究は実質的な価値のあるものとして高く評価できる.

● 可変構造型並列計算機の並列/分散オペレーティング・システム

[89-OS-43 (1989. 6. 9)]



福田 兎君 (正会員)

現在に至る. 工学博士. 現在, 並列/分散オペレーティング・システムの研究, 開発に従事. オペレーティング・システム, 並列/分散処理, 計算機システムの性能評価に興味をもつ. 電子情報通信学会, 日本 OR 学会, ACM, IEEE 各会員.

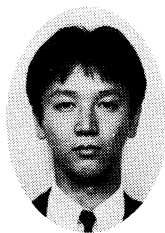
1954 年生. 1977 年九州大学工学部情報工学科卒業. 1979 年同大学院修士課程修了. 同年 NTT 研究所入所. 1983 年九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻助手. 1989 年同大学助教授,

〔推薦理由〕

並列処理の研究には, 計算機アーキテクチャ, 並列・分散用 OS, 言語, 応用を含めた広い視野からの系統的な研究が不可欠である. 本研究は, これらの研究を系統的にかつ長期的に構想し, 実証的研究を目指したものである. 具体的には, ネットワークおよびメモリ構成にダイナミック・アーキテクチャを適用した汎用のマルチプロセッサ・システムである「可変構造型並列計算機」を開発し, 並列・分散用 OS を基礎から設計している. まだ完成の域には至っていないが並列・分散処理の研究に大きく寄与すると期待できる.

● PLA の並列分解について

[88-DA-45 (1988. 12. 16)]



東田 基樹君 (正会員)

特に論理合成システムの研究開発に従事. 電子情報通信学会会員.

昭和 39 年生. 昭和 62 年大阪大学工学部電子工学科卒業. 平成元年同大学院工学研究科前期課程修了. 同年三菱電機(株)入社. 現在, 同社カスタム LSI 設計技術開発センター勤務. LSI CAD,

〔推薦理由〕

計算機による設計自動化の研究は, 論理, レアウトなどで実用的な成果があげられてきたが最適化アルゴリズムでは多くの課題が残されてきた. 本研究では PLA という LSI 論理の構成法に着目して論理特性最適化と LSI 面積の最小化という問題を解決する論理の単純化アルゴリズムを提案し, プログラム化して性能評価と有効性を確

認した。PLA は論理変更に対応できる方式としてマイコンをはじめ各種 LSI で実用に供されている。本研究成は学術的に高水準にあるだけでなく、産業界における実用的価値も高く研究賞に値する。

● 左右対称形キーボードの試作と打けん操作特性の評価

(計算機システムのヒューマンインタフェースシンポジウム (1989. 4. 14))



白鳥 嘉勇君 (正会員)

昭和 19 年生。昭和 42 年静岡
大学工学部機械工学科卒業。昭和
44 年同大学院工学研究科修士課
程修了。同年日本電信電話公社
(現 NTT) 入社。現在ヒューマ
ンインタフェース研究所視覚情報

研究部に所属。同社技術情報センタ技術管理部兼務。
日本語入力、マンマシンインタフェース、視覚情報処
理機構の研究に従事。電子情報通信学会、人間工学会
各会員。

(推薦理由)

この研究は、従来型英文用キーボードにおいて、配列はもとのままとし、ただし従来の左上がりのキー配置を廃して左右対称となるように変更したものを数種試作し、英文タイプ熟練者に使用させ、その結果から、新配置では使用開始後 30 時間で従来型における初期成績の約 6 割増しの速度が得られること、および最終的成績は従来型の約 2 割増しと予測されることを示したものである。これは現行のヒューマンインタフェースの常識的部分に大きな改善の余地があることを実験的、数量的に示した刺激的な研究として、研究賞にまことにふさわしい。

● 高速自動微分法と区間解析とを用いた丸め誤差推定

(89-NA-27 (1988. 12. 2))



久保田光一君 (正会員)

昭和 35 年生。昭和 58 年東京大
学工学部計数工学科卒業。昭和 60
年同大学院修士課程修了。同年東
京大学工学部計数工学科助手。平
成元年慶應義塾大学理工学部管理
工学科助手。工学博士。数値計

算の研究に従事。

(推薦理由)

授賞者等により開発された高速自動微分法には、四則演算等による誤差を正確に推定する機能を内部に有している。授賞者はこの機能と誤差解析の基礎的手法である区間解析を組み合わせ、かつ誤差の出現に統計的処理も加えて、推定誤差範囲を狭く絞り込む手法を開発した。これにより、厳格な区間解析では推定誤差範囲を過大に広く評価するため計算結果から信頼度の高い情報が得にくいのが、本方法は推定誤差範囲の狭い、信頼度の高い情報を得ることができるという実用性の高い誤差推定法である。これは研究賞に値する業績である。

● SIAM における利用者ニーズの分析と活用

(利用者指向の情報システムシンポジウム (1989. 12. 8))



ソムジャーリー・プリーヤノン・
タカハシ君 (正会員)

昭和 31 年生。タイ国籍。昭和
55 年タイ王国チュラロンコーン
大学商會計学部統計学科卒業。同
年同大学商會計学部講師。昭和 58
年研修留学のため来日。昭和 62

年慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程修了。現
在、同大学院理工学研究科管理工学専攻博士課程に在
学中。情報システム開発方法論、特にシステム分析等
の上流工程の方法論の研究に従事。情報システム開発
や要求仕様定義における利用者の積極参加、情報シス
テム監査等に興味をもつ。

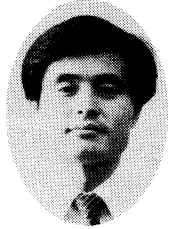
〔推薦理由〕

本論文は、特に利用者が開発過程に積極的に参画することを重点に、現状分析から要求仕様確定までの過程を体験的な作業手順として支援する新しい方法論 (SIAM) を提案し、そこでの情報管理体系 (ASIA) について論じている。単に方法論の提案のみでなく、あいまいな利用者ニーズから要求仕様明確化までの情報管理を作業工程ごとに具体的に分析し、作業支援ツールを作成し、実証事例も試みていることが評価できる。そして、利用者と開発者のコミュニケーション円滑化のねらいが方法論のなかで具体的に実現されている点が優れている。

● 大規模文書情報システム用テキストサーチマシンの研究

〔89-FI-14 (1989. 7. 27)〕

加藤 寛次君 (正会員)



昭和 24 年生。昭和 49 年東京大学工学部精密機械工学科卒業。同年 (株) 日立製作所入社。現在、同社中央研究所勤務。文書情報システムの研究開発に従事。計測自動制御学会、精密工学会各会員。

〔推薦理由〕

本研究は、フルテキストサーチを実時間で可能にする疑似スキャン型サーチ方式を提案し、それをプロトタイプ上で実証したものである。具体的には、階層型プリサーチ方式によりサーチを高速化し、実用規模のデータベースへの適用を可能にし、また、同義語や異表記語に対する辞書と変換ルールによる展開方式を提案している。さらに、並列型の磁気ディスク装置や文字列照合用の専用ハードウェア、近傍条件や文脈条件等の高速処理アルゴリズムなど、ソフトウェアおよびハードウェアの両面からアプローチしたもので、完成度の高い研究である。

● 多重グラフの辺連結度を求めるアルゴリズム

〔90-AL-13 (1990. 1. 31)〕

永持 仁君 (正会員)



昭和 35 年生。昭和 58 年京都大学農学部農業工学科卒業。昭和 60 年同大学院工学研究科数理工学専攻修士課程修了。昭和 63 年同大学院博士課程修了。工学博士。同年豊橋技術科学大学工学部助手。

平成 2 年京都大学工学部助手、現在に至る。グラフ、ネットワークアルゴリズムに興味を持つ。電子情報通信学会、日本 OR 学会各会員。

〔推薦理由〕

本発表は、多重グラフの辺連結度を求める問題に対して、従来のフローを用いた手法とは異なる新たな手法を開発し、それを用いて簡単で効率のよい新アルゴリズムを与えたものである。開発された新手法は、グラフをある条件を満たす森に分解するもので、アイデアの新規性が高く、その簡潔さゆえに実用性も十分ある。さらに新手法は、ネットワークの最小カット問題など他の問題にも適用できる拡張性の優れたものである。このように、本研究はアルゴリズム研究の総合的な観点からみてたいへん優れたものであり、研究賞に値する。

第 40 回 全国大会学術奨励賞の表彰

第 40 回 全国大会学術奨励賞は、去る 9 月 4 日～6 日に東北大学教養部で開催された第 41 回 全国大会の席上、会長から下記 11 君に授与されました。

本賞は今年 3 月開催の第 40 回全国大会（於早稲田大学）の発表論文を対象に、学術奨励賞委員会（委員長 戸田副会長）において表彰規程にもとづき、総発表件数 816 件中推薦のあった 60 名の候補者の中から 31 名を選び、さらに慎重審議の結果、11 名が受賞候補者として推薦され、第 345 回理事会（平成 2 年 7 月）の承認をえて決定されたものです。

神経回路網の連想機能を用いたかな漢字変換方式 (1C-3)

鈴木 節君（正会員）

昭和 35 年生。昭和 59 年東京工業大学工学部情報工学科卒業。昭和 61 年同大学大学院理工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年(株)東芝入社。以来同社総合研究所勤務。並列計算機のアーキテクチャ、知識情報処理、人工の神経回路網等の研究に従事。電子情報通信学会、人工知能学会各会員。

極小限定の確率的意味について (6C-7)

佐藤 健君（正会員）

昭和 56 年東京大学理学部情報科学科卒業。同年(株)富士通研究所入社。昭和 59～60 年英国インペリアルカレッジ客員研究員。昭和 62 年より(財)新世代コンピュータ技術開発機構に出向中。非単調推論の研究に従事。

Case-Based Reasoning によるエキスパートシステムの知識獲得の容易化 (4D-7)

吉浦 裕君（正会員）

1957 年生。1981 年東京大学理学部情報科学科卒業。同年(株)日立製作所入社。同社日立研究所を経て、現在、同社システム開発研究所に勤務。自然言語処理、CAD、知識処理の研究に従事。電子情報通信学会会員。

LR 法に基づく新しい並列構文解析アルゴリズム (4F-3)

沼崎 浩明君（正会員）

昭和 37 年生。昭和 61 年東京工業大学工学部情報工学科卒業。昭和 63 年同大学大学院理工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年(株)三菱総合研究所入社。平成元年同社退社。同年東京工業大学大学院理工学研究科情報工学専攻博士課程入学。自然言語処理に関する研究に従事。並列処理に興味を持つ。電子情報通信学会会員。

分散メモリ上でのジェネレーションスキヤベンジング GC (3G-10)

小池 汎平君（正会員）

昭和 36 年生。昭和 59 年東京大学工学部電子工学科卒業。平成元年同大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程満期退学。同年より東京大学工学部電気工学科助手。工学博士。並列計算機アーキテクチャ、及び、記号処理言語の実装法に関する研究に従事。

並列・分散処理環境を対象とした OS ReSC における分散オプティマイザ (5G-3)

新城 靖君（正会員）

1965 年生。1988 年筑波大学第三学群情報学類卒業。現在同大学大学院博士課程工学研究科電子・情報工学専攻に在学中。オペレーティング・システム、データベース・システム、並列処理、分散処理に興味をもつ。研究活動のために JUNET を積極的に利用している。ACM 会員。

鳥類図鑑 Hyperbook における鳴き声検索 (4H-3)

矢川 雄一君 (学生会員)

昭和 40 年生. 平成元年早稲田大学理工学部電子通信学科卒業. 現在同大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程に在学中. マルチメディアデータベース, マンマシンインタフェース, 音声認識に興味を持つ. 電子情報通信学会会員.

テクスチャを用いた雲状対象物の動的表現 (2P-2)

大島登志一君 (正会員)

1963 年生. 1986 年筑波大学第三学群情報学類卒業. 現在同大学博士課程工学研究科在籍. コンピュータグラフィックス, 画像処理, 人工知能, コンピュータアートに興味を持つ. CAM SIGGRAPH 会員.

システムソフトウェアの可視化に関する一考察 (1R-7)

市川 至君 (正会員)

昭和 33 年生. 昭和 62 年東京工業大学理工学研究科情報工学専攻博士後期課程修了. 工学博士. 昭和 61 年富士通(株)に入社. JUNET など UNIX ネットワークの発展に微力ながらも協力する. 現在, (株)富士通研究所にて, ソフトウェア工学, 特にソフト開発における視覚化の研究に従事. 電子情報通信学会, 日本ユニックスユーザ会各会員.

音楽解釈システム MIS における演奏ルールの抽出について (6R-6)

片寄 晴弘君 (正会員)

昭和 39 年生. 昭和 61 年大阪大学基礎工学部制御工学科卒業. 昭和 63 年同大学院修士課程修了. 現在, 同大学院博士課程に在学中. 音楽情報処理, 感性情報処理の研究に従事. 人工知能学会会員.

APTBook—本メタファーを用いた情報提供システム (3S-4)

小林 稔君 (正会員)

1964 年生. 1988 年慶応義塾大学理工学部計測工学科卒業. 1990 年同大学大学院理工学研究科計測工学専攻修士課程修了. 同年日本電信電話(株)入社. 現在, 同社ヒューマンインタフェース研究所ヒューマンインタフェース方式研究部に所属. B-ISDN 用端末のヒューマンインタフェースの研究に従事.

情報処理学会 第42回 全国大会実施要領

応用分野の論文投稿を

—全国大会の活性化に向けて—

現在、情報処理技術にとって応用分野の役割が非常に大きくなってきております。しかしながら、全国大会講演論文の投稿状況は、この変化を反映しているとはいいたいがたい状態です。全国大会を活性化し、学会を魅力あるものにするために応用分野の論文投稿を大いに奨励いたします。

具体的な応用利用場面に根ざした実感のある論文の投稿を期待します。例えば、以下のような応用システムの研究・開発・運用・利用・普及等にかかわる多方面の方々、ユーザの方々、コンピュータメーカのシステム開発やアプリケーション開発に従事されているの方々、ソフトウェアハウスやシステムハウスの方々の積極的な投稿と大会への参加を期待します。

CAD, CAE, CIM などの設計・製造向けシステム, CAI などの教育支援システム, OA などのオフィス業務支援システム, 医療・社会システム, 官公庁システム, 金融システム, 受発注システム, 各種エキスパートシステム, ユーザ向け自然言語処理システム, ユーザ向け図形・画像処理システム, ユーザ向けデータベース, etc.

講演発表希望者は、実施要領を熟読のうえ、日程に従って所定の手続きを進めてください。

論文締切日の厳守を徹底しますので、論文等の提出は必ず期日までにお出しください。一日でも遅れると発表できなくなりますので、特にご注意願います。

開催期日 平成3年3月12日(火)～14日(木)

会場 東京工科大学 (八王子市片倉町)

日程一覧 1. 講演発表用原稿用紙等の請求

学会誌本号 (Vol. 31, No. 10) 掲載の請求書に記入して、応募規程 IV.1 の申込方法により請求してください。

2. 原稿用紙等の送付

請求書を11月22日(木)に締切り、事務局から「論文原稿用紙」等をお送りします。

3. 講演論文等の提出

講演論文原稿および登録原稿等を一括して**12月21日(金)**までに、学会事務局に必着するようにご提出ください。応募規程 IV.2 参照。なお、12月21日に持参する方は、機械振興会館6階69号室にて受付けています。締切りに遅れますと発表できなくなりますので、特にご注意ください。

4. プログラム編成委員会の開催

講演論文等を締切り次第、大会プログラムの編成および座長候補の推薦を行います。

5. 講演発表者には講演番号を1月下旬に到着するようご通知いたします。

6. 大会プログラムを学会誌2月号 (Vol. 32, No. 2) に掲載いたします。発表者は特にご注意ください。

応募規程 I. 講演内容

1. 全国大会にふさわしい内容を備えたものとします。
2. 発表は日本語または英語とします。

II. 応募資格

1. 登壇発表者は申込時に情報処理学会個人会員であること。

2. 共同発表者は当学会個人会員であることが望ましい。
3. 平成2年度会費未納の会員は発表できません。
4. 電気, 電子情報通信, 照明, テレビジョン各学会会員は当学会会員と同様の取り扱いとします。ただし, 奨励賞の表彰対象者にはなれません。

III. 講演論文該当分野

1. 情報科学一般
 - A. 一般, B. 社会, C. 教育
2. 基礎理論及び基礎技術
 - A. 情報数学, B. 情報理論及びOR, C. データ解析, D. 数値計算, E. シミュレーション
3. 人工知能及び認知科学
 - A. 基礎理論, B. 人工知能システム, C. 自然言語処理, D. パターン認識, E. 生体情報処理, F. 感性情報処理
4. データ処理
 - A. 音声処理, B. 画像・図形処理, C. テキスト処理, D. マルチメディア処理
5. ソフトウェア
 - A. 基礎理論, B. プログラム言語及び仕様記述言語, C. 言語処理系, D. ツール, E. オペレーティングシステム, F. データベース・情報検索, G. プログラミング技術
6. ソフトウェア工学
 - A. 開発技術, B. テスト・保守, C. ソフトウェアプロセス, D. 開発環境, E. ヒューマンファクタ
7. ハードウェア
 - A. 基礎理論, B. 論理回路, C. デバイス, D. アーキテクチャ, E. 周辺・端末, F. 設計技術及び設計自動化, G. 開発環境, H. テスト・検証
8. ネットワーク
 - A. 通信技術, B. ネットワーク管理, C. コンピュータネットワーク
9. システム
 - A. 対話型システム, B. オンラインシステム, C. 制御システム, D. システム評価
10. 信頼性と安全性
 - A. 信頼性, B. 機密保護
11. 応用
 - A. 企業等への応用, B. 工学等への応用, C. 芸術等への応用, D. その他への応用

IV. 申込方法

1. 原稿用紙の請求は本号みどりのページ掲載の「全国大会講演発表用原稿用紙等請求書」に必要事項を記入して申込むこと。
2. 講演申込は講演論文原稿および登録原稿等を添えて申込むこと。
なお, 連続発表を希望される場合は, 別紙にて標題, 講演者名および発表順番を明記し, 原稿等をまとめて送付すること。

V. 申込件数

1. 登壇発表は原則として1人1件とします。
2. 2件以上になる場合は, 1件ごとに発表料が必要です。また, 別紙にて標題, 発表分野を明記し, 原稿等をまとめて送付すること。

VI. 講演参加費

1. 1件につき, 会員は7,000円, 学生は4,000円です。
2. 講演論文原稿等を提出する際, 同時に納入してください。なお, 納入後, 発表申込を取消されても返金できませんのでご注意ください。

VII. 論文提出

1. 論文は, 12月21日(金)(必着)までに提出してください。
2. 論文は日本語または英語とします。

3. 論文抄録を「学会発表データベース（第一系）、学術情報センター」に入力することになりました。所定の用紙および記入要領に従って記入のうえ論文と一緒に提出してください。なお、著作権は学会と共有です。
4. ワープロ、タイプで作成した原稿はプリントした原文をお使いください。
5. 論文提出後の訂正は一切取扱いません。よく推敲して提出してください。
論文締切を遅らせたため訂正はできなくなりました。

Ⅷ. 論文の採否

講演論文の採否は大会運営委員会（プログラム編成委員会）が決定する。採択しないものは、例えば次のような場合である。

1. 論文の内容が著しく不十分なもの。
2. 内容が商業宣伝に偏したもの（極端な商品名の引用には注意する）。
3. 同一または類似の発表がなされており、かつ前進がないもの。
4. 応募規程に違反するもの。
5. 提出期限に遅れたもの（次回への応募をお薦めします）。

Ⅸ. 論文集の配布

発表者には講演論文を含んだ論文集1冊を事前に郵送します。

X. 発表論文の別刷はいたしません。

XI. 発表当日の講演者心得

1. 講演の始まる前に、必ず自分の発表会場の講演者受付で、出席の確認を受ける。
2. 必ず前の講演者の講演時間中には、座長席の前に設けられた講演者控で待機する。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて15分間とします（都合により13分間のセッションもあります）。講演中でも時間切れで打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の5分前および3分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代理（読）は認めません。

XII. 申込先及び問合せ先

(社)情報処理学会 全国大会係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

第 42 回 全国大会講演発表用原稿用紙等請求書

1. 発表を希望する者は氏名、住所、請求部数を記入して申込むこと、返送用宛名用紙にも同様に記入のこと。
2. 原稿用紙等の送料として1組希望の場合は郵便切手175円、2組以上の場合は1組増すごとに75円添付のこと。
3. 申込みは本用紙のコピーを郵送のこと。
4. 本号掲載の実施要領をよく読んで請求してください。
5. 返信用封筒はいりません。

氏 名 _____ Tel. _____

住 所 _____

請求部数 _____ 組請求します。

(切り取らずにお申込みください)

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> - <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	(氏名) (住所)
情報処理学会第42回全国大会 原稿用紙在中	
組	殿

「グラフィクスと CAD シンポジウム」開催について

標記シンポジウムに関して、多数の論文をご応募をいただき誠にありがとうございました。論文審査の結果、下記要領でシンポジウムを開催することにいたしましたので、多数の方々のご参加をお願いします。

日 時 平成2年11月21日(水)9時~22日(木)17時
場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)
参加費 正会員 10,000 円, 非会員 15,000 円, 学生会員 1,500 円(論文集のみ4,000 円, 送料込)
申込締切 平成2年11月9日(金)(定員150名になり次第締め切らせていただきます。論文集のみの方は、印刷部数に限りがありますので、なるべく早目にお申し込みください)。

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第1日 11月21日(水)

開 会 (9:00~9:10)

司会 近藤 邦雄(埼玉大)

中嶋 正之(東工大)

●挨拶

セッション1 CAD(1) (9:10~10:40)

座長 寺嶋 廣克(日本電気技術情報システム開発)

●統合化機械設計支援方式について

日向 一弘, 小林 広明, 中村 維男(東北大)

●機械設計図面の自動理解に関する研究

長屋 隆之, 渡辺 崇, 藤井 省三(名大)

●自動車ワイヤハーネス CAD システムの開発

渡辺 伸一(三菱自動車)

——休憩 (10:40~10:50)——

セッション2 CAD(2) (10:50~12:20)

座長 長島 毅(日本ユニシス)

●自動経路検索機能をもった電力工法 CAD システムの開発

金田 和文, 山藤 哲嗣, 中前栄八郎(広島大), 野口 高男, 大橋 敏明(東電)

●景観評価画像作成のための道路形状 CAD システム

金田 和文, 友田 由之, 中前栄八郎(広島大), 野口 高男, 大橋 敏明(東電)

●ツーバイフォー建築工法への自動実施設計システム

見戸 義英, 西川 伸人, 金谷外志彦, 福地 陽一, 波多野 侃(三菱)

——昼休み (12:20~13:20)——

パネル討論 (13:20~15:30)

司会 守屋 慎次(電機大)

●グループウェアとその CAD 分野への応用と発展(案)

石井 裕(NTT), 阪田 史郎(日電), 松下 温(慶大), 西田 正吾(三菱)

——休憩 (15:30~15:40)——

招待講演 (15:40~17:00)

司会 松井 俊浩(電総研)

●人間的, 文化的, 社会的な面から考えたマルチメディア発展の必要・十分条件

西 和彦(アスキー)

ソフトウェアと半導体とディスプレイ技術が進歩することで、グラフィクス装置の機能は近年大幅に向上した。グラフィクスは今や高精細度静止画グラフィクスとリアルタイムのグラフィクス(ビデオ)に分化して進化しつつある。

マルチメディアの要素となる技術の発展は止まることはないが、実際に広く普及すると考えられる商用化の組合せは、その中で数種類しかない。その大きな流れを決めるものは、人間的なファクタであり、それがコンピュータの社会的な限界条件ではないだろうか。

また、現在マルチメディアはAV、出版、コンピュータソフトの3つの分野で論じられているが、それらがどのように1つになって文化を創ってゆくかもあわせて考察する。

第2日 11月22日(木)

セッション3 形状処理(1) (9:00~10:00)

- 4×4行列式法による点と面の双対な干渉処理
- 非多様体位相の計算機内表現と操作

座長 間瀬 健二 (NTT)
新関 雅俊, 林 高, 山口富士夫 (早大)
山口 泰 (電機大), 木村 文彦 (東大)

—休憩 (10:00~10:15)—

セッション4 形状処理(2) (10:15~11:45)

- 3次元閉曲線を境界とする平面への展開が可能な曲面の決定
- 新しい Blending パッチを用いた Bezier パッチの接続法
- 多種類の曲面を持つ立体に対する集合演算

座長 福井 幸男 (製科研)
吉川 信治 (動燃)
斎藤 剛, 穂坂 衛 (電機大)

佐藤 敏明, 高村 禎二, 鳥谷 浩志 (リコー), 千代倉弘明 (慶大)

—昼食 (11:45~12:45)—

セッション5 レンダリング(1) (12:45~14:15)

- 位相空間における向きづけ不能曲面の可視化に関する試行(その1)
- パラメトリック曲面の高精度隠線消去表示

座長 小堀 研一 (シャープ)
鶴野 幸子 (近畿大)

- マルチプロセッサによる高速自由曲面レンダリングのための一手法

西田 友是 (福山大), 田北 晋一 (香川大), 中前栄八郎 (広島大)

西村 健二, 西尾 一孝, 峰 久次郎, 中瀬 義盛 (松下電器)

セッション6 レンダリング(2) (14:15~15:45)

- コンピュータ・グラフィクスによる髪の毛の質感表現
- 様々な自然物に適用できる樹木の形状定義法
- 向日性による樹木の自然な枝振りのシミュレーション

座長 西田 友是 (福山大)
東條 弘, 宮原 誠 (長岡技科大)
井上 秀紀 (長岡技科大), 江島 俊朗 (九工大)

金丸 直義 (東北大), 高橋 清明, 千葉 則茂 (岩手大), 斎藤 伸白 (東北大)

—休憩 (15:45~16:00)—

セッション7 アニメーション (16:00~17:00)

- 質点系である剛体モデルの力学アニメーション
- フレーム間内挿による CG 動画像生成の一手法

座長 福井 一夫 (NHK)
鈴木 幸夫, 小林 広明, 中村 維男 (東北大)

中 俊弥, 平井 誠, 中瀬 義盛, 西澤 貞次 (松下電器)

「グラフィクスと CAD」シンポジウム

参加申込書

平成 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

* 参加費には, 資料代が含まれています。

○資料のみ (4,000 円, 送料込) _____冊

○送金方法

* _____円を a) 当日, 会場受付にて支払います。

b) _____月 _____日送金します。

* (b を選択した方のみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____銀行宛

・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より

・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

所属名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

「アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム」開催について

—新しいデータベースの適用—

8月号本欄でお知らせしました標記シンポジウムを開催いたします。詳しいプログラムについては11月号に掲載いたします。なお、参加者数に制限がありますのでお早めにお申し込みください。

日 時 平成2年12月5日(水)～12月6日(木)

場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)

参加費 正会員 10,000円, 非会員 15,000円, 学生会員 1,500円(論文集のみ 4,000円, 送料込)

申込締切 平成2年11月22日(木)(論文集のみの方は、印刷部数に限りがありますので、なるべくお早目に申し込みください)。

プログラム概要

- 基調講演

「大規模知識ベース研究開発の構想と課題」

横井 俊夫(日本電子化辞書研究所)

「ハイパーメディアとその産業応用について」

加藤 光彦(アップルジャパン)

- 招待講演

「CASE 環境のためのデータベース」

松本 吉弘(京都大学)

- サーベイ

「新しい SQL—SQL2 パブリックレビュー—」

芝野 耕司(東京国際大学)

「グループウェアの展望と動向」

松下 温(慶応義塾大学)

- パネル討論

「次世代 DB としてのオブジェクト指向データベース」

司会 増永 良文(図書館情報大学)

本パネルは、本年7月、9月、11月(予定)のDBS研究会におけるパネル討論を受けたもので、OODB宣言・第3世代DBMS宣言等をふまえ、我が国における次世代データベース像について種々の視点より討議する予定です。

- 一般論文発表

「アドバンスト・データベースシステム」シンポジウム

参加申込書

平成 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

* 参加費には, 資料代が含まれています。

○テキストのみ (6,000 円, 送料込) _____ 冊

○送金方法

- * _____ 円を a) 当日, 会場受付にて支払います。
- b) _____ 月 _____ 日送金します。

* (b を選択したかたのみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル
 (社)情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店	1013945	富士銀行虎ノ門支店	993632
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608	太陽神戸三井銀行東京 営業部	4298739
住友銀行東京公務部	10899	三和銀行東京公務部	21409
名義人	東京都港区麻布台 2-4-2	社団法人	情報処理学会

- ・送金先銀行名 _____ 銀行宛
- ・送金取扱銀行名 _____ 銀行 _____ 支店より
- ・送金人名義 _____ 様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

所属名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

「SE（システム・エンジニア）教育のあり方と今後の課題シンポジウム」 開催について

近年戦略情報システム（SIS）構想の重要性が各企業で盛んに叫ばれております。しかしながら、戦略情報システムを設計できる専門家（SE）は充分とはいえません。しかも、その専門家（SE）の育成を目指している大学等のカリキュラムは少なく、また研究者も乏しいのが現状であります。こうした状況を是正することは、明日の戦略情報システムの構築に向けて大きな課題といえましょう。各階層の教育実践者、研究者が一堂に会して、広く研究発表を行い、経験を交換し、検討することは、重要な意義があるものと考えます。

そこで、「情報システム研究会」と「コンピュータと教育研究会」共催で、標記のシンポジウムを計画し、論文募集を行いましたところ、多数の論文をご応募いただき誠にありがとうございました。論文審査の結果、下記要領でシンポジウムを開催することにいたしましたので、多数の方々のご参加をお願いします。また、懇親会も1日目（11月30日）に開催いたしますので、情報交換の場としてご利用ください。

日 時 平成2年11月30日（金）～12月1日（土）

場 所 機械振興会館大ホール（地下2階）

参加費 正会員 10,000 円、非会員 15,000 円、学生会員 1,500 円（論文集のみ 4,000 円、送料込）

懇親会費 3,000 円

申込締切 平成2年11月22日（木）

プログラムの概要（予定）

●招待講演（2件）

伊藤 裕（新日鉄情報通信）

上条 史彦（東海大）

●パネルディスカッション「SE 像とは」

司会 有山 正孝（電通大）

パネラー 浦 昭二（慶大）、都丸 敬介（日立）

他 1 名

●一般講演（13件）

セッション 1 SE と SE 教育のあり方

SE のもつべき能力・資質について議論し、SE 教育のあり方について人・社会・組織面から論究し、討論する。

セッション 2 SE 教育のカリキュラム

大学・高専・コンピュータ専門学校それぞれの立場から、SE 教育のカリキュラムのあり方と今後の課題を提案し、議論する。また、ロールプレイングなどの教育技法についても議論する。

セッション 3 SE のキャリアパスと教育体系

企業における SE のキャリアパス、教育プログラム、教育体系等に関する事例研究を提示し、問題点、今後のあり方を討議する。SE 教育のためのメディア・教材についても議論する。

プログラムの詳細は、次号（11月号）に掲載いたします。

「SE 教育のあり方と今後の課題」シンポジウム

参加申込書

平成 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

* 参加費には, 資料代が含まれています。

○懇親会費 (3,000 円) _____名

○資料のみ ((4,000 円, 送料込) _____冊

○送金方法

* _____円を a) 当日, 会場受付にて支払います。

b) _____月 _____日送金します。

* (b を選択した方のみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____銀行宛

・送金取扱銀行名 _____銀行 _____支店より

・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

所属名 _____

フリガナ

氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

「第 32 回 プログラミング・シンポジウム」開催のお知らせ

標記シンポジウムを下記の要領で開催いたしますので、多数の方々のご参加をお願いいたします。参加ご希望の方は、期日までに所要事項を申込書に記入のうえ、お申し込みください。本シンポジウムの趣旨から、「情報処理分野で多くの経験のある方、また、これにつよい関心をもち積極的に勉強されている若い新鮮な方で、特にシンポジウムにおいて有益な形で討議に参加しようという意欲のある」多数の方々の参加を希望します。

記

日 時 1991年1月8日(火) 午前10時 受付開始(この日の昼食は用意しません)
午後1時 開会
10日(木) 午後1時 閉会

場 所 箱根ホテル小涌園(神奈川県足柄下郡箱根町二の平 1297) Tel. 0460 (2) 4111

交 通 路線バス: 小田原駅表口<登山バス>箱根町行~小涌園前 約40分
箱根湯本駅~小涌園前 約30分
タクシー: 小田原駅表口~小涌園前 約30分
箱根湯本駅~小涌園前 約20分

参 加 費 (予稿集代、宿泊費、食費を含む。カッコ内は非会員参加費)
☆大学院学生 23,000円(26,000円)
☆大学助手以上、研究所関係者 30,000円(35,000円)
☆会社関係者 35,000円(40,000円)
※二つ以上の身分をお持ちの場合は、高い方の会費を適用させていただきます。

申込締切 1990年11月30日(金)

- 注) 1. 参加申し込み後やむを得ず参加を取り消される場合は12月18日(火)までにお願ひします。取り消しの連絡のない場合は、準備の都合上、参加費を徴収させていただきます。事情による代理の参加は認めません。
2. 会場、宿泊施設の都合で、お申し込みに応じかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
3. 同一所属からの参加者数は適当にご調整ください。
4. 開催期間中の途中での出入りや、人員の交替はご遠慮ください。

「第32回 プログラミング・シンポジウム」

参加申込書

1990年 月 日

1. フリガナ
氏名 _____ 男・女
所属 _____
連絡先(〒) _____

E-mail _____ 電話 _____

(公開可能な方のみご記入ください)

2. 参加区分
- | | 会 員 | 非会員 |
|-----------------|--------------------------|--------------------------|
| ☆ 大学院学生 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ☆ 大学助手以上、研究所関係者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ☆ 会社関係者 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

会員番号 _____

※ 参加区分は、該当の□の中に✓を入れてください。さらに情報処理学会会員の方は、会員番号もご記入ください。
記入のない場合は、会社関係者・非会員として取扱います。

3. 送金・支払方法

- a. 当日持参します。

¥ _____ 也を次の方法で送金します。(送金日 ___月 ___日)

- b. 現金書留 c. 郵便振替 (東京 5-83484) d. 銀行振込 (_____ 銀行宛)

銀行振込口座番号 (いずれも普通預金)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 三井銀行本店 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No. _____)

請求書 _____ 通, 見積書 _____ 通, 納品書 _____ 通

請求先 _____

4. 次の各項目は部屋割の資料として使います。

- ◇ 年齢は _____ 歳・内緒
◇ 宿泊室は 喫煙室希望・禁煙室希望・どちらでもよい
◇ そのほか特に希望があれば記入してください (必ずそのとおりにすると約束はできません。)

5. 次の各項目はシンポジウムの運営の参考にします。

- ◇ 夜の自由討論の希望テーマ _____
◇ マイコン・ビデオデモなどの展示、発表希望 _____

6. 送付先・問合せ先

情報処理学会「プログラミング・シンポジウム」係

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

公開シンポジウムのお知らせ

大学等における情報処理教育の調査研究 (文部省高等教育局 研究委嘱)

当学会では、文部省から研究委嘱を受け、昭和 63 年度から委員会を設けて、わが国の大学、短期大学、高等専門学校における情報処理教育の実体を調査分析し、諸外国の資料を参考として今後のカリキュラムの在り方、教育方法、施設設備などについて、具体的提案を得るための調査研究を行っています。本年は、この調査研究の最終年度となる予定であり、現在まで本委員会が取りまとめた内容について下記による公開シンポジウムを開催し、教育者・企業人をはじめ、この問題に強い関心を持つ方々に、調査研究の内容を広く紹介すると共に討論をおこない、その結果を報告書にまとめていくことを計画しました。皆さまのご参加をお待ちしております。

記

主 催 情報処理学会

大学等における情報処理教育の調査研究委嘱委員会 (委員長 野口正一)

参加費 無料 (参加希望者は、書面または FAX で係まで、申し込んでください。)

開催日

- ・西日本 日 時 平成 2 年 11 月 30 日 (金) 13:00~17:00
場 所 京都大学工学部土木総合館 155 講義室 (京都市左京区吉田本町)
定 員 230 名 (先着順)
- ・東日本 日 時 平成 2 年 12 月 10 日 (月) 13:00~17:00
場 所 工学院大学 3 階 312 教室 (新宿区西新宿 1-24-2)
定 員 250 名 (先着順)

プログラム (西日本、東日本 共通)

挨拶 文部省高等教育局専門教育課長 (予定)

司会者 野口正一 (東北大学)

CS 教育 (コンピュータ・サイエンス) 牛島和夫 (九州大学), 諸橋正幸 (日本アイ・ビー・エム)

IS 教育 (インフォメーション・システム) 国井利泰 (東京大学), 藤野喜一 (日本電気),

一般教育 大岩 元 (豊橋技科大), 吉津英男 (日産自動車)

問合せ・申込先 106 港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3F
(社)情報処理学会 情報処理教育公開シンポジウム係
Tel. 03 (505) 0505 Fax 03 (584) 7925

COMPSAC '91 日本開催と論文募集

COMPSAC は、ソフトウェアおよびアプリケーションをテーマに、ソフトウェア開発と保守のためのツールと方法論、ソフトウェアの品質と生産性、分散処理・スーパーコンピュータ等の新技術、各産業へのソフトウェア工学の応用などを中心とした実際的话题を扱う国際会議です。とくに、近年は、人工知能および知識ベースシステムとそのソフトウェア工学への応用についても多くの発表が寄せられています。COMPSAC は、1977年に第1回が開かれ、第10回まで米国で開催され、1987年に第11回を日本で開催しました。第11回会議は、日本はもちろんアジア・オセアニア地域からも予想を超える多数の論文が寄せられ、参加者も700名を越えました。このたび、第15回会議を来年9月に東京で開催することになりました。下記の要領で論文を募集します。また、パネルセッションの提案も募集しています。詳しくは Call for Papers をご覧ください。

記

正式名称	The Fifteenth Annual International Computer Software & Applications Conference		
主催	情報処理学会, IEEE Computer Society		
後援	(予定) 文部省, 通商産業省, 郵政省		
協賛	日本電子工業振興協会, 情報サービス産業協会, 日本情報処理開発協会, 電子情報通信学会, 日本ソフトウェア科学会, 人工知能学会		
日時	1991年9月9日(月), 10日(火) Tutorials 11日(水)~13日(金) Conference		
会場	工学院大学 東京新宿		
組織	委員長	大野 豊 (立命館大学) Dick B. Simmons (Texas A & M University)	
	プログラム委員長	東 基衛 (早稲田大学) Lionel M. Ni (Michigan State University)	
募集要項	●論文締切	1991年1月12日	
	採否通知	1991年3月17日	
	camera-ready	1991年5月15日	
	●論文体裁	英文 full paper 6部, 3000-5000語	
	●主なテーマ	Software Tools for Parallel and Distributed Systems Software Methodologies, CASE Tools, and Management Object-Oriented Software Developments Database and Knowledge-based Systems	
問合せ先	113 東京都文京区本郷 3-23-1 日本学会事務センター 上原紀子 Tel. 03 (817) 5831 Fax 03 (817) 5836		

The Second International Symposium on Database Systems for Advanced Applications (DASFAA '91)

参加募集

標記国際シンポジウムが1991年4月に東京で開催されます。企業、大学、研究機関の研究者、開発技術者、SE、ユーザおよび学生の方々の積極的な参加を期待しております。

開催日 1991年(平成3年)4月2日(火)~4日(木)

開催場所 工学院大学(新宿)

主催 (社)情報処理学会

協賛 Korea Information Science Society, Singapore Computer Society

後援 IEEE Computer Society, ACM SIGMOD

プログラム 次のようなセッションを予定しております。

4月2日(火)

チュートリアル (1) オブジェクト指向データモデリング 酒井博敬(中央大学)

オブジェクト指向アプローチをDB設計に適用する際の考え方について説明する。

(2) データ主導設計技法 堀内一(日立)

今注目を集めているデータ主導情報システム設計(DOA)について解説する。

(3) JIS データモデリング機能 穂鷹良介(筑波大学)

日本で初のデータモデルの標準化作業の概要について解説する。

オープニング・セッション 16:30~18:00 ウェルカム・アドレス

キーノート・スピーチ Won Kim (UniSql)

レセプション 18:00~19:00 工学院大学

4月3日(水)

テクニカル・セッション 9:00~15:30 の間に6つのセッション(並列)を設けます。

パネル 16:00~17:30

「オブジェクト指向データベースの応用とこれからの課題」と題してOODBの実際の応用とそれから得られた今後の課題を中心に討論していただきます。

パネル議長 田中克己(神戸大学)

パネリスト: 先進的なデータベース応用を考慮しておられるまたは実際にOODBを実務に適用しておられる内外の研究者・技術者の方々をお願いしております。

バンケット 18:00~19:30 京王プラザホテル

4月4日(木)

テクニカル・セッション 9:00~17:30 の間に8つのセッション(並列)を設けます。

クロージング・セッション 17:30~18:00

登録費(予定) シンポジウム(カッコ内は1991年2月18日以降の登録費)

会員(情報処理学会, ACM, IEEE)

非会員

一般 3万円(3万6千円)

一般 3万9千円(4万6千円)

学生 5千円(6千円)

学生 5千円(6千円)

チュートリアル

一般 1万円(1万2千円)

一般 1万3千円(1万5千円)

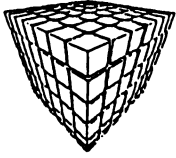
学生 2千円(2千5百円)

学生 2千円(2千5百円)

バンケット参加費 1万円(1万2千円)

問合せ先(申込み先) 図書館情報大学 増永良文

305 つくば市春日 1-2 Tel. 0298 (52) 0511 (内 340) Fax. 0298 (52) 4326



CALL FOR PAPERS

並列処理シンポジウム Joint Symposium on Parallel Processing JSPP'91

コンピュータにおける並列処理の技術的な課題を対象として、基礎理論、アルゴリズム、ソフトウェア、アーキテクチャ、応用と広い範囲にわたって議論することを目的とした並列処理シンポジウムも、今回で3回目を迎えることとなります。これまで、日本における並列処理の中心的研究交流の場の1つとして、ホットな話題を提供してきました。今回は、並列処理アーキテクチャだけでなく、並列処理ソフトウェアや応用分野についても活発な研究討論を持ち、学際的な並列処理研究の発展を目指して、下記のようなテーマについて論文を募集いたします。是非、多数ご応募ください。

- テ　　マ
- ・ 並列処理の基礎理論
 - ・ 並列アルゴリズム
 - ・ 並列処理ソフトウェア（言語、OS、DB など）
 - ・ 並列計算機アーキテクチャ
 - ・ 並列処理の応用
 - ・ その他、ニューロコンピューティング、光コンピューティングなど

日　　時 1991年5月14日（火）～5月16日（木）

場　　所 神戸コンベンションセンター（ポートアイランド）

申し込方法 発表申込票に必要事項を記入の上、A4版2枚以内（図表を含む）の発表概要を添えてお申し込みください。実行委員会において無名で審査を行います。

申し込締切 1990年12月12日（水）

原稿送付先 〒180 東京都武蔵野市緑町 3-9-11 NTT・基礎研究所情報科学部

奥乃 博 Tel. (0422) 59-3850 Fax. (0422) 59-3943

E-mail okuno@ntt-20.ntt.jp

共　　催 情報処理学会データベース研究会、同計算機アーキテクチャ研究会、同オペレーティングシステム研究会、同数値解析研究会、同プログラミング言語研究会、同アルゴリズム研究会、電子情報通信学会コンピュータシステム研究会

協　　賛 ソフトウェア科学会

日　　程 1990年12月12日（水）発表概要締切

1991年1月31日（木）審査結果通知

1991年4月11日（木）カメラレディ原稿締切

実行委員会

委員長

米澤 明憲

副委員長

富田 眞治

林 弘

幹事

市吉 伸行

奥乃 博

横田 治夫

委員

雨宮 真人

荒木 啓二郎

安西 祐一郎

石川 裕

伊藤 貴康

小柳 滋

小柳 義夫

寛 捷彦

金田 悠紀夫

上村 務

小池 誠彦

後藤 厚宏

小長谷 明彦

桜川 貴司

島田 俊夫

清水 謙多郎

曾和 将容

高橋 義造

竹内 彰一

田中 輝雄

田中英彦

近山 隆

長島 重夫

西川 博昭

西澤 貞次

西関 隆夫

萩原 兼一

馬場 敬信

浜田 穂積

人見 深

堀越 彌

牧之内 顕文

松本 裕治

村岡 洋一

安浦 寛人

安村 通晃

山口 喜教

弓場 敏嗣

横手 靖彦

吉澤 康文

発表申込票

発表題目：

発表者（略称所属）：

連絡先：

キーワード（3個程度）：

(Tel.

Fax.

)

学術情報センターの情報検索サービスの利用について

学術情報センター（所長 猪瀬博）の学会発表データベース第一系（情報・電気・制御等）には、会員の皆さまのご協力を得て、1988年より全国大会・研究会における発表の概要情報が蓄積されつつあります。この度、学術情報センターから当学会の正会員を「当センターの事業に協力する者」として利用者の範囲に含め、情報検索サービスを直接利用することができるようになったことの通知がありました。

下記に利用方法の概要を記しますのでご利用ください。

記

1. 利用できるデータベース 学会発表データベース第一系のうち、当学会が提供したデータ（全国大会、研究会で発表者が学術情報センター・データシートを作成提出したもの）
2. 利用できる者 当学会の正会員
3. 利用の手続き 学術情報センターシステム利用申請書および記入要領等を学術情報センターから受取り、記入後、当学会経由で提出する。
4. 利用料金 利用料金の目安として、接続料（データベースに接続している時間に対して）50円/分、ヒット料（検索された情報を端末に出力した件数に対して）13円/件となります。
5. 利用問合せ先（利用方法を含む） 112 東京都文京区大塚3丁目29番1号
学術情報センター 共同利用課共同利用係
Tel. 03 (942) 6933~6934
6. 学会窓口 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3F
(社)情報処理学会事務局 全国大会または研究会係
Tel. 03 (505) 0505

学会誌送本先の住所等の変更届について（お願い）

勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙（本号末尾に添付）にて氏名、会員番号を付し、早速にご連絡ください。異動の受付は毎月20日に締切り、翌月号から変更いたします。21日以降受付分の変更は翌々月号からとなりますのでご注意ください。

支部だより

中部支部 支部大会案内——平成2年度電気関係学会東海支部連合大会

期 日 平成2年10月21日(日), 22日(月)

会 場 名古屋大学工学部(名古屋市千種区不老町)

特別講演 チンパンジーの知能(21日 15:00~17:00)

松沢 哲郎(京大霊長類研)

シンポジウム(依頼講演)

有機電子材料の現状と将来

座長 水谷 照吉(名大)

新・省エネルギーの現状と将来

座長 菺田 光治(中電)

無線通信に関する最近の話題

座長 小川 明(名大)

これからのASIC技術—回路の大規模化にどう対処するか

座長 今井 正治(豊技大)

ニューラルネットワーク情報処理

座長 岩田 彰(名工大)

知識型ビジョンの産業応用

座長 阿部 圭一(静大)

奥水 大和(中京大)

一般参加費 講演者以外は、参加費(正会員500円, 会員外800円, 学生無料)を当日受付で支払い, 参加章を受取ること。ただし, 論文集購入者は参加費不要。

懇親会 21日(日) 17:20~19:30 名古屋大学 生協(理系食堂) 会費3,500円(学生2,000円)
参加希望者は当日大会受付で会費を添えて申込むこと。

問合せ先 460 名古屋市中区錦 2-17-21 NTT DAEA 東銀ビル NTT データ通信(株)東海支社内
電気関係学会東海支部連合大会実行委員会事務局 Tel. 052 (204) 4517

講演会

日 時 平成2年10月20日(土) 11:00~12:40

会 場 岐阜大学工学部106教室(岐阜市柳戸1-1)

演 題 紀元前4000年来の光工学の足跡

飯塚 啓吾(トロント大)

参加費 無 料(参加資格は問いません。)

問合せ先 岐阜大学工学部電子情報工学科情報コース 小鹿 丈夫 Tel. 0528 (30) 1111

見学会

日 時 平成2年12月3日(月) 8:45~18:30

見学先 (株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)(京都府相楽郡精華町乾谷・三平谷)

集合場所 JR名古屋駅西口(旧壁画前)に8:45までに集合(時間厳守)

行程(内容) 8:45 JR名古屋駅西口集合

9:00 出発(貸切りバス)

13:00~15:00 ATR見学等

18:30(予定) JR名古屋駅西口解散

参加資格 情報処理学会中部支部会員のみ

参加費 2,000円(昼食代)

定 員 40名(先着順)

申込方法 往復はがきに「ATR見学会申込」と記入し, 会員番号, 氏名, 所属(役職), 連絡先住所・電話番号を明記のうえ, 下記事務局宛へ送付する。

申込締切 11月26日(月)必着
問合せ先 460 名古屋市中区錦 2-17-21 NTT DATA 東銀ビル NTT データ通信(株)東海支社内
情報処理学会中部支部事務局 Tel. 052 (204) 4517

関西支部 数値解析研究会

日 時 平成2年12月8日(土) 14:00~17:40
会 場 大阪工業大学 記念館セミナー室A (2F)

プログラム

- (1) 有限要素法から CAE への展開——固体ロケット構造解析, 環境アセスメント, 射出成形 CAE など
田中 豊喜(東レ)
- (2) 代数方程式に対する同時反復解法の収束特性とその応用
都田 艶子(阪大)
- (3) 偏微分方程式の解析解と差分近似解の収束性
早川款達郎(大阪府大)
- (4) パソコンによる流れの数値計算
大西 和榮(福岡大)

若手研究会 上記研究会の翌日(12月9日(日)), 同じ会場で大学院生を中心とした若手の研究会を開催します。詳しくは後日ご案内します。

参加費 無料(数値解析研究会登録者以外の方も参加できます)。

懇親会 12月8日(土)の研究会終了後(17:50~)大阪工業大学内で開催します。
会費:5,000円(学生3,000円)。

宿泊 ご希望の方は、大阪工業大学の宿泊施設を利用できます(有料)。

申込方法 ①参加の区別(a研究会のみ, b研究会および懇親会, c研究会, 懇親会, 若手研究会すべて),
②所属, ③氏名, ④連絡先(FAX または電話), ⑤宿泊希望の有無を記入のうえ, FAX またははがき
で11月末日までにお申込みください。

申込・問合せ先

535 大阪市旭区大宮 5-16-1 大阪工業大学一般教育科 友枝 謙二
Tel. 06 (952) 3131 (内 3841, 3800) FAX 06 (952) 6101

第2回 ソフトウェア研究会

日 時 平成2年12月20日(木) 13:10~17:00
会 場 (財)関西情報センター会議室(大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階)

定 員 約50名

資料代 600円

テーマ 「CASE」

- (1) CASE 概論(仮題) 鯨坂 恒夫(京大)
- (2) CASE の最近動向とその適用事例(仮題) 杉野 真幸, 橋本 敏昭(関西日電ソフトウェア)
- (3) CASE の導入と活用(仮題) 佐原 伸, 桜井 麻里(SRA)
- (4) TIS の開発環境の進め方(仮題) 福本賢太郎, 西田 光志(東洋情報システム)

問合せ先 情報処理学会関西支部 Tel. 06 (346) 2543

中国支部 支部大会案内——平成2年度電気関係学会中国支部連合大会

日 時 平成2年10月28日(日) 9:00~17:20

会 場 岡山大学(岡山市津島中 3-1-1)

一般参加費 無料

懇親会 10月28日(日)特別講演終了後、会費3,000円
はがきで**10月18日(木)**までにお申込みください。なお、会費は当日受付でお支払いください。
問合せ先 広島大学工学部第二類(電気系)内 情報処理学会中国支部 中村 庚二
Tel. 0824 (22) 7111 (内 3443)

四国支部 講演会

日時 平成2年10月19日(金) 15:10~16:30
会場 愛媛大学工学部4号館19番講義室(松山市文京町3番)
演題 情報科学から知能科学への展開 堂下 修司(京大)
参加費 無料(参加資格は問いません。)
問合せ先 愛媛大学工学部情報工学科 石田 信子 Tel. 0899 (24) 7111 (内 3700)

本会協賛等の行事案内*

- 第11回 日本医用画像工学会セミナー
平成2年11月7日(水) 国立がんセンター国際研究交流会館
- 第2回 画像入力シンポジウム
平成2年11月13日(火) 東京大学生産技術研究所
- 第9回 JAGDA コンピュータシンポジウム 1990
平成2年11月14日(水) 東京・TEPIA ホール
- 第169回 講習会
平成2年11月20日(火) 東京・明治大学
- 講習会「フェジィ・エキスパート・システム」
平成2年12月7日(金) 関西大学
- 日本機械学会関西支部第180回 講習会
平成3年1月22日(火)~23日(水) 大阪・建設交流館
- 第6回 OA 全国総合大会
平成3年2月28日(木)~3月1日(金) 東京・日本消防会館
- 第12回 計算電気・電子工学シンポジウム
平成3年3月22日(金)~23日(土) 東京・日本科学技術連盟
- 第8回 センシングフォーラム
平成3年4月4日(木)~5日(金) 東京・学士会館
- ソフトウェア・シンポジウム '91
平成3年6月10日(月)~12日(水) 名古屋国際会議場

* 詳細は本号会議案内欄参照